

# 月刊トマホーク通信

NO. 27  
88. 1. 20  
定価 100円

東京都渋谷区渋谷 2-5-9 パル青山 502 トマ喰虫社 ☎ 03(498)6095  
044(63)5101

## DISARM THE SEAS !



— 海の軍備撤廃を ! —

トマホーク艦  
■ ファイフ、バンカーヒルの  
横須賀母港化を止めよう !

■ 非核独立太平洋マニラ会議の報告 ————— 梅林宏道

■ 核被害者世界大会に参加して ————— 木原省治

トマホークの配備を許さずな ! 全国運動 —————

●維持会員（月間会費）

●参加会員（月間会費）

●通信会員

団体 1日 2000円  
個人 1日 1000円

団体 1日 1000円  
個人 1日 500円

年間 2000円

あなたも仲間に !

巡航核ミサイル・トマホークを大量に搭載可能とするで、アーリーの駆逐艦（フリーランド）は港にさえない県民による反対する（横須賀母港化）

米艦の母港化

## 夏までに100万人署名 反対団体世論に訴え

カーヒルには百十墓のト

マホーク発射管が取り付けら

れており、現時点では米軍艦

で最大のトマホーク搭載可能

艦となるという。

このため、同グループでは、

バードドレッス

の公演質問、ギヤラバ、集

くして、そして新しいやり方に大胆に挑戦し

て、あらゆる非核・平和を願う人々と手をつ

ないで、この国が手にしようとしている「悪

魔の選択」を拒否しよう！

神奈川・横須賀では草の根署名始まるとしている（左のスクランプ参照）。全国でもやろう。「反核千人委員会」「NCC（日本キリスト教協議会）平和委員会」「平和事務所」「婦人民主クラブ」の四者を連絡先にした全国署名の準備が進められている。

### ● 非核自治体アンケート —

全国の非核を宣言した自治体と市民にとってこれは決して他人ごとではないはずだ。全国規模でのアンケート調査をやろう。それに都是道府県ごとのあるいは地方ブロックごとの「担い手」が必要。協力者をつくる！

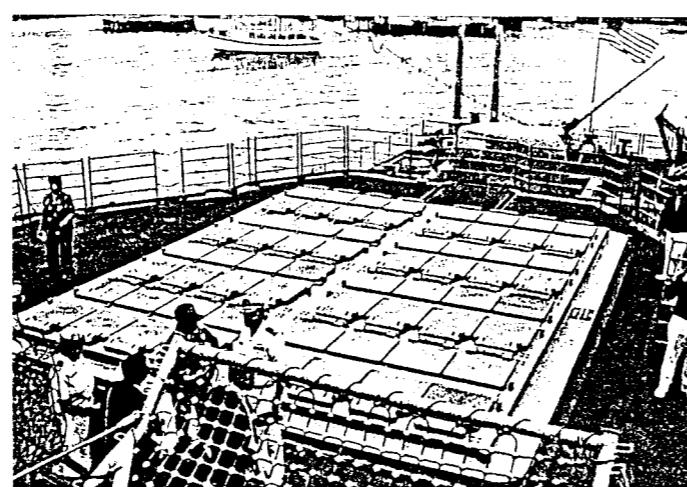
- 出前学習会 —
- 行動計画 —

- 母港化の意味は以外なほど正しくは伝わっていない。マスコミの取り上げ方も小さい。ならば我等が最大の武器「口コミ」だ。「首都圏運動」ではスライドと説明用マニュアルを作った。この二つを持ってドンドンでかけてゆこう。出前の注文はトマホーク虫社へ。もちろん首都圏以外にも出張します。

- チラシ・パンフレットの配布 —

- 横須賀ではパンフレット作製に拍車。新聞折り込みのチラシも、もう配られているはず。首都圏運動もリーフ作製中。

- 署名運動 —



パンカーヒルのMK41垂直発射システム

188.1.19.  
汽船新聞  
神奈川地政ニュース

巡航核ミサイル・トマホークを搭載する艦（パンカーヒル）は港にさえない県民による反対する（横須賀母港化）

米艦の母港化

## 夏までに100万人署名 反対団体世論に訴え

カーヒルには百十墓のト

マホーク発射管が取り付けら

れており、現時点では米軍艦

で最大のトマホーク搭載可能

艦となるという。

このため、同グループでは、

バードドレッス

の公演質問、ギヤラバ、集

くして、そして新しいやり方に大胆に挑戦し

て、あらゆる非核・平和を願う人々と手をつ

ないで、この国が手にしようとしている「悪

魔の選択」を拒否しよう！

- 出前学習会 —
- 行動計画 —

- 母港化の意味は以外なほど正しくは伝わっていない。マスコミの取り上げ方も小さい。ならば我等が最大の武器「口コミ」だ。「首都圏運動」ではスライドと説明用マニュアルを作った。この二つを持ってドンドンでかけてゆこう。出前の注文はトマホーク虫社へ。もちろん首都圏以外にも出張します。

- チラシ・パンフレットの配布 —

- 横須賀ではパンフレット作製に拍車。新聞折り込みのチラシも、もう配られているはず。首都圏運動もリーフ作製中。

- 署名運動 —

## 垂直発射システムのテスト艦 今度は、パンカーヒルの母港化



なんということだ。

一月十四日、米海軍はミサイル巡洋艦パンカーヒルの横須賀母港化を発表したのである。

パンカーヒルについて、マスコミの取り上げ方は、どちらかといふと「イージス艦（最新鋭の海上防空システムを備えたミサイル巡洋艦）の配備」というところに比重が置かれている。たしかにそのこと自体も重大だ。しかし、「問題」の本命・かんどころは間違いない。「トマホーク」である。

すでに母港化が発表されている駆逐艦ファイフと同じく、パンカーヒルはトマホークを装着可能な垂直発射システム（VLS、六十基）を持つ。それを備えている。それどころか、この艦はVLSのテスト（八六年五月）に使われた、元祖、草分け的存在なのである。左の写真はその時のものだ。都合百八十三のトマホーク発射台が横須賀に据えられる。それが二隻の「母港化」の意味だ。

一月の発射管を持つ）を二基備えている。それどころか、この艦はVLSのテスト（八六年五月）に使われた、元祖、草分け的存在なのである。左の写真はその時のものだ。都合百八十三のトマホーク発射台が横須賀に据えられる。それが二隻の「母港化」の意味だ。

このVLSは「多目的発射装置システム」

だから全てが全てトマホークとは限らない。

八四年の米議会資料には、搭載予定のトマホークはファイフに四十五、パンカーヒルに二十六とある。この控え目な数字をいつても合計七十一発の海洋中距離核（INP）トマホークが日本に配備されるということなのである。

陸上INFの世界規模での全廃合意に世界の平和世論がよろこびにわいた、この時に。

いや、「全廃」がじつは核を陸上から海洋に移すのにすぎなかつたことがこれではつきりしたのである。恐るべき、そして怒るべきことではないか。

私たちの答えは一つ。「母港化を止めよう！」これまでにやつてきた全てのてだてをつくりして、そして新しいやり方に大胆に挑戦して、あらゆる非核・平和を願う人々と手をつなないで、この国が手にしようとしている「魔の選択」を拒否しよう！

私たちの答えは一つ。「母港化を止めよう！」これまでにやつてきた全てのてだてをつくりして、そして新しいやり方に大胆に挑戦して、あらゆる非核・平和を願う人々と手をつなないで、この国が手にしようとしている「魔の選択」を拒否しよう！

私たちの答えは一つ。「母港化を止めよう！」これまでにやつてきた全てのてだてをつくりして、そして新しいやり方に大胆に挑戦して、あらゆる非核・平和を願う人々と手をつなないで、この国が手にしようとしている「魔の選択」を拒否しよう！

# 非核独立太平洋マニラ会議

(87.11.15～15) の報告

●梅林宏道

太平洋の島々から…

昨年（一九八七年）の十一月九日から十六

会場はマニラ中心地のリサール公園からそ  
う遠くないピウス十二世センターというカソ  
リック施設であった。私の宿泊も同じ。断水  
でトイレの水が流れないので何度も往生したが、  
それもこれまでのフィリピン経験でなれてい  
たので気にならず、すこぶる快適であった。  
フィリピンに来るとやはり元気を回復する。

太平洋会議に出席した。それより先五日から八日まで、先住民のみの会議が開かれていた。主催したのはP.C.R.C（太平洋問題資料センター）で、一九八三年にバヌアツで第四回が開催されてから四年ぶりの開催であった。P.C.R.Cの運営委員会から「海の軍備撤廃を！太平洋運動」のホノルル事務所に太平洋の軍事化の現状と太平洋運動の活動を報告してほしいと依頼があり、結局私が行くことになつた。P.C.R.Cの財政を助ける意味で日本でカンパを募り参加経費をまかなうことが反トマ運動で決まり、多くの方々から協力をいただいた。ここに心からの謝意を表わすとともに、報告の義務を果たしたい。また、非核・非同盟の日本への夢が鼓舞される、かけがえのない人々との出会いを、今後の私たちの運動に生かしてゆきたい。

会場はマニラ中心地のリサール公園からそ  
う遠くないピウス十二世センターというカソ  
リック施設であった。私の宿泊も同じ。断水  
でトイレの水が流れないので何度も往生したが、  
それもこれまでのフィリピン経験でなれてい  
たので気にならず、すこぶる快適であった。  
フィリピンに来るとやはり元気を回復する。

参加した地域は実に多かった。名前を聞く  
だけでも太平洋の香が漂う島々の代表が顔を  
そろえた。北マリアナ連邦、クックアイラン  
ド、斐济、グアム、ハワイ、カナーキイ  
(ニューカレドニア)、キリバス、ニウエ、  
ソロモン諸島、タヒチ、トンガ、西パプア、  
西サモア、パプア、ニューギニア、マーシャ  
ルからの参加者がなかったのが少し寂しかっ  
た。今回の会議を成功に導いた事務局長のロ  
ベッティ・セニトリ氏(トンガ)が、マニラ  
空港の入国管理局は、一度も見たことのない  
国の名前がパスポートにあるのでびっくりす  
るだろう、と書いていたのが思い出される。

環太平洋の国々からは、先住民と非先住民  
が参加。日本からはアイヌの参加を準備でき  
なかつたことで大きな宿題が残った。会議参  
加者は投票権のある正式代表とオブザーバー  
などに厳密に区別されたが、日本からの参加  
者の場合は事前の相談でその区別は便宜的な



## 全体的な印象

ていただきたい

ループによるアメリカ大使館への抗議デモが行なわれた。夜の会議も多がつたが、ビデオ上映、各国の文化的催しの披露などがあつた。会議では、二十六個の決議と五個の行動提案が採択されたが、その中には横須賀へのフライフ母港化反対など日本から提案したものも含まれている。前号の反トマ通信を参照し

ものに過ぎないと話しあつたので参加グループを区別なく列挙しておく。沖縄原水禁、原水禁、日本キリスト教協議会、カトリック正義と平和協議会、社会党、総評、反核パシフィックセンター、反トマ運動、平和事務所、東チモール支援委員会、進出企業を考える会。今回は、香港、韓国（在比、在米）、ヨーロッパからの参加もあった。ヨーロッパからは、グリーナム・コモンの平和キャンプからの三人の女性、デンマーク平和財団、スウェーデン外務省の軍縮担当者などの参加が印象的であった。

参加地図は約三十ヶ所、参加者は約百三十人

・開会式 締込会 シスター・タンの式辞

## 地域代表による参加者の紹介

・ 非核独立太平洋憲章の再検討  
・ 重点討論 ベラウ、フィジー、カナーキ

## ・太平洋の軍事化 ・政治介入と経済搾取、援助問題

・ 土地闘争、独立闘争、ハワイ、東チモール、アメリカ・インディアン、マオリ、

途中で半日、参加者とフィリピンの女性グ



傾向が強まっているのではないだろうか。ヨーロッパの反核運動と比較して、太平洋民衆の置かれている植民地主義の歴史は全く異なるものである。したがって非核化の問題が植民地主義との対決と一体化してゆく必然性はヨーロッパと比較にならない。今日、ベラウ、フィリピン、韓国の非核化とアメリカの干涉

の問題はそのことを端的に示している。会議の中で、韓国の代表がカナーキイの代表に力ナーキイの解放闘争が非核化などのように結びついているのか、と率直な質問をしていただがこれは非核化と解放闘争の関係が一般的にはややわかりにくい例である。しかし、カナーキイの代表は、カナーキ人の独立を認めないフランスの太平洋戦略の根本は南太平洋における核実験場を確保することにある、カナーキイの独立なしに仏領ボリネシアの島々の独立と非核化はないだろう、と明快に応えた。アオテアロア（ニュージーランド）の反核運動と独立の関係はもう一つの例である。私の報告の中でも強調したが、一見独立国であるニュージーランドが非核政策を徹底しようとしたとき、アメリカ、イギリス（より間接的にはオーストラリア、日本）からの干渉はすさまじいものであった。それをはね返す闘いは民衆の主権への尊厳に支えられた。しかし、たとえばハワイ先住民の土地闘争、ウラン採掘と直接つながらない先住民の権利回復の闘争などの場合、これまで述べたような反核と独立の一体性の文脈とはまた異なる次元であることもまた否めないであろう。この辺に、非核独立太平洋運動について充分に整理されていない部分があることは確かである。私自身も、非核独立太平洋運動というの

は何なのだろうと会議の中で何度も自問した。「早く整理すべきである」とは思わなかった。しかし、非核独立太平洋運動の発展の中で、きっとその性格づけをめぐる討論がもう一度訪れてくるのではないかという印象を強くもつた。

## 支援グループ？

非核独立太平洋運動とは何だろうか、という問いは、日本人として何故ここに居るのだろうかという自問でもあった。

「海の軍備撤廃を！太平洋運動」が、八八年のリムバツク反対運動に言及した決議を提案したこととに端を発して、ハワイの先住民代表が白人活動家への不信を露わに表明した場面があった。この場面は、今回の会議の中で色々な人々の対立や感情の機微が最も複雑に交錯し爆発した瞬間であった。不幸な情報の行き違いや誤解を含むこの一連の出来事を、ここで説明するのはむずかしいしその必要もないと思われる。ハワイの先住民の態度に怒りて議長をしていたローマン・ベドール氏が席を立ち、あと味の悪い会議の中断のあつた翌日の夜、先住民と支援グループがそれぞれ

準備段階から、今回の会議はフィジー問題でもめると思っていた。南太平洋の先住民の運動家たちの間で、現フィジー政権の評価を巡って深刻な意見の違いがあり、ランプカ、クーデター政権を支持する運動家がマニラ会

分かれて懇談する場が持たれた。パシフィック・センターの船田君と私は、この会に出て、オーストラリア、オタロア、カナダ、アメリカ、ヨーロッパの白人たち、韓国人たちとともに、「支援」とは何かをめぐって長い議論をした。とてもいい議論であったと思う。グリーナムからの女性の一人とオーストラリアからの女性の一人は議論の途中で感情の高ぶりで泣き出す場面もあった。

単純に善悪の判断を私は下したくないが、このような話し合いの場を「先住民」と「支援」と抵抗なく二分する考え方が太平洋の運動にはある。アジア民衆と日本の運動との関係では、そこはそんなに単純ではない。日本の運動にも色々あるが少なくとも、今回の会議に参加している白人たちと似たような質の運動をしている日本の運動に関してはそうである。

私は自分の日韓連帯運動の経験を思い出しながら、日本の運動が「支援」と言う言葉を使わなくなつた経過を説明した。また、金芝河が三・アピールの中で「あなた方は私たちを救うことは出来ないが、私たちの願いはあなたの方を救うことが出来るだろう」と語ったことを引用し、私たちが受けたショックを語った。そして日本の運動は自分たちの国のが根源的変革を志すことにおいて、解放闘争と



## フィジー

に出席するとの報も入っていた。「太平洋の軍事化」について基調報告するわが身としては、フィジー問題をどう描くかということ頭が痛かった。結局は、南太平洋から遠い日本に居る分だけ、はつきりとフィジーの反核政権の回復の必要性を主張するのがよいと腹をくくっていた。



会議の運営委員会は、クーデター反対派で古くからフィジー非核化の活動を続けて来たフィジー反核グループ（FANG）と昨年の四月のババンドラ労働党連立政権の成立後に結成された右翼的、人種差別的民族運動であるタウケイ運動の両方に招待状を出した。そして、FANGが拒否し、タウケイが同意して、一時はタウケイのみがマニラ会議に参加するという状況になった。FANGの出席予定者であったジョン・ダグブラ氏は手紙で、タウケイ運動は非核化への敵対者であり出席の資格がないこと、フィジー国内は戒厳令状

態でありマニラ会議でタウケイと同席しても、その後の安全性の保障がなく対等な議論は成立しないことを出席拒否の理由としていた。しかし、マニラに着いてみると状況が逆転していた。タウケイは出席せずジョン・ダグブラ氏が来ていた。この逆転のプロセスは充分につかめなかった。ニュージーランドの平和運動を中心に強力な巻き返しがあったと思われる。

ジョン・ダグブラと何度も話をした。温厚な人物で、静かに、しかし、彼の言葉によれば孤軍奮闘していた。先住民だけの会議ではメラネシア・ポリネシアの純粹民族主義を打ち出しているタウケイ政権に同情的な雰囲気が強く、アメリカの戦略や反差別の理念から事態を見ようとする主張は非常に出にくいうことで、アオテアロアの先住民マオリにしてみれば、ヨーロッパ的理念は結局のところマオリを少数化して白人が土地を奪ってしまったのであって、一時的なゆき過ぎは先住民の権利を確保するためにやむを得ないと言う。ジョン自身、実はクーデターを起こしたランプカ大佐のいとこで、もちろんメラネシア・ポリネシア系であった。彼は、熱心にババンドラ政権こそ本当にメラネシア・ポリネシア系の不可侵の権利を保証し、しかもインド系との人種対立を越える新しいフレームを訴えている。

反トマ運動ではフィジー事態の大切さを訴え、文献紹介や学習会をして來ていたので会議ではそれが大へんに役に立つた。（ア）

イジー社会に一步を踏み出す政権であったと力説した。

ジョンは、フィジーで拷問が始まっていると話をし、その事例のリストをくれた。そしてフィジーが国連軍に三千二百人も兵を派遣しており、その報償金（一年に五百万米ドル）がタウケイ政権の重要な資金源になっていることを訴え、国連にこれを止めさせるキャンペーンをしてほしいと語っていた。

さて、マニラ会議はフィジーに関してどのような決議をあげるかを巡って実にていいとな議論をした。ロペツティ事務局長は、各国、そして国の中で議論がまとまらないならば各グループが必ず発言をするよううに要請し、プログラムには無かつた議事を設定した。そして、決議の中の「第五回非核独立太平洋会議は、a 政権をとる手段としてのフィジーの軍事クーデター、b 政権を行使する手段として投票にされ、アオテアロアなど三ヶ国が棄権をして採択された。日本の代表団には、現政の軍事独裁……を非難する」という個所が投票を認めない趣旨をもつと明確に出すべきだと強い意見もあつたが、決議に賛成する道を選んだ。

## ハリスバードの タンポポ

昨年九月二十六日から十月三日までニューヨークで開催された第一回核被害者世界大会に参加した。

この大会で感じたことを、昨年流行の俵万智風に表現してみると次の二つの短歌になつた。もちろん俵さん程の才能がないことは皆さんよーくご存知のことですが。

「日本は唯一の被爆国」なんて、世界に向かって言つてしまつていいの？  
「核戦争みんな死ねばこわくない」なんて言つてくれるじゃないと思う」

大会には、広島・長崎の被爆者をはじめ、被爆兵士、核実験の風下住民、ビキニ環礁の核被害者、スリーマイルやチエルノブリの放射能被害者、原子力施設の労働者、ウラン採掘などで被害を受けている先住民、そして科学者、医師、さらに弁護士らが参加、それぞれの立場から核被害の実情を訴えた。

この大会での核被害者の証言などは、週間誌やミニコミなどで多く紹介されているため重複しないようにしたい。

九月二十七日、大会参加者は国連近くの公園にむけてデモ行進をした。横文字のスロー



# 核被害者世界大会に参加して

原発はごめんだヒロシマ市民の会

代表 木原省治

ガンが並ぶ中で、見慣れた「原発絶対反対」と日本語で書かれたハチマキをしたメアリー・オズボーンさんでは、記憶に無いかも知れないが、TMI事故の現在を訴えるため、放射能の影響で普通の三～四倍の大きさになつたタンポボの葉をもつて、今年の三月から四月にかけて日本各地をまわった、ハリスバーグの主婦。

ハリスバーグの彼女の家に泊めてもらつた。

タンポボの葉だけでなく、おしゃべりのない花、片方向のふくらみのない葉、二つの花がくつついたヒマワリやタンポボの花、TMIの事故の風下に多く発生しているガンなどの恐ろしい深刻な話を聞いた。

「いま見られる植物の異常は、私たちへの警戒なのよ」とメアリーさんはいつた。米工ネルギー省や州政府などは、事故で漏れた放射能は低レベルで少量と言つており、健康調査や環境調査もいまなお行われていない。八・六には彼女らのグループはTMI原発のあの川に、ヒロシマ・ナガサキ・ハリスバーグデイとして、日本流のとうろうを流したとか……。

「日本へ来ていて、どういう日本語を覚えてる？」と聞いたら、ただ一つだけ「ガンバラウ」と笑いながら答えてくれた。

## ゼリー・ベイビー…

核被害者の報告の中から、「ゼリー・ベイビー」という言葉を何度か聞いた。ヒバクシヤから生れた子供で、形態をなさないで死産という形で生れる子のことである。

一九五二年の南太平洋での英國核実験に参加した退役軍人のグレイさん（五十七才）は、「一九五五年に最初の子供が生まれたが、ゼリー・ベイビーだった。その後生まれた三人の子供も、長女はお腹に穴があいていた。あと二人も奇形だった」と発言。

グレイさんの知人の退役軍人の子供にも、指の全然ない子供、身体の全部が青くなったりの子供も、長女はお腹に穴があいていた。あと二人も奇形だった」と発言。

グレイさんの知人の退役軍人の子供にも、指の全然ない子供、身体の全部が青くなったりの子供も、長女はお腹に穴があいていた。あと二人も奇形だった」と発言。

グレイさんの知人の退役軍人の子供にも、指の全然ない子供、身体の全部が青くなったりの子供も、長女はお腹に穴があいていた。あと二人も奇形だった」と発言。

大会には、米国に住んでいた広島・長崎の被爆者の姿がなかつた。米国には推定で、一〇〇〇人程度の広島・長崎の体験者がいるとされている。ほとんどの人が、西海岸のサンフランシスコやロサンゼルスに集中しているのだが、この人達の状況を現地に聞いた。

精神的にも物理的にも追いつめられた状況に涙が出た。

医療費に莫大なお金がかかる。被爆者とわかれれば、保険に加入させてくれない。だから一日病院へ行つたら六百ドル、入院すれば一日一千ドルはかかる。手術でもしたらすぐに一万ドル以上の出費になるという。日本政府は、外国に住む被爆者には何の対策もしていない。

一般的米国人からは、あらわにパールハーバーと言つて敵意あらわにされる。平和団体からは、デモの先頭に立つてくれと言われ、一方核推進者からは「放射能の被害を受けたが、このように元気に生きている」と証言してくれと頼まれるという。

ニューヨークの街は、貧乏と金持ちそしてさまざまな人種の混在するところである。大きなビルのほとんどに「FALLOUT-SHELTER」の小さな看板がついている。

そして犯罪の多い街だからか、セキュリティの核被害に応えなくては……。現在進行形の核被害を語るだけでいいの。現在進行形の核被害に応えなくては……。

## 世界から ヒロシマに――

大会の中で日本の二～三人の被爆者が「我々は唯一の被爆国民として……」と発言した。この場は、核被害者世界大会である。そして「惨劇の様子」が語られる。ヒロシマは過去形の核被害を語るだけでいいの。現在進行形の核被害に応えなくては……。



The Rev  
ベサニーチャンの母親クローディアさん



大きなビルにあった核シェルターのマーク

一五〇〇人を追跡調査した結果、四百五十二人から「身体障害や知恵遅れ」などの「異常」が発見されている。

グレイさん本人の歯もほとんど抜けている。しかし彼自身四五年前まで、核実験で被害が出ることなど知らなかつたようだ。

大会中に、低線量放射能の研究で有名な口ザリー・バー・テルさんらの医師グループが、ヒバクシャの血液検査をやつていた。人手指の先からチクッと針のようなものをさして

少量採血する。その後念入りな問診。耳からとるとのと違つて、針をさしたとき痛いこと、痛いこと。

ネバダの核実験の風下住民と言われている人が何人かいたが、なんと全員に白血球異常が認められた。

十一月九日、国際電話がかかつた。米国ユ

# 核の海から 生命の海へ

ピース・スピリット

■北西太平洋反核国際シンポジウム

○1988.3.6 ○東京・文京区民センター

■海の軍備撤廃のための国際週間(「モンティド'88」)

○1988.5.X ○横須賀(予定)

などなど

7-3 2400  
+1300

7-226100  
231100

海外ゲスト●	ベラウ、
韓国から	フリリピン
参加費●	1500円(高校生以下割引きあり)
時半●	開会11時
開場●	10時半●

PEACE SPIRIT'88

核の海からいのちの海へ

2-28-5-31



* 定価	* 編集	月刊反トマホーク通信	No
100円(通信会員年間1000円)		一九八八年一月二〇日発行	27
		* 発行	
		トマホークの配備を許すな! 全国運動	
		東京都渋谷区渋谷二一五十九バル	
		青山五〇二 トマ喰い虫社	
		03(498)6095	
		044(63)5101	

よびかけ  
88.1.11  
現在

アジア太平洋資料センター  
トマホークの配備を許すな! 全国運動  
日本カトリック正義と平和協議会  
日本キリスト教協議会・平和委員会  
日本はこれでいいのか市民連合  
日本YWCA強調点委員会  
反核1000人委員会  
婦人民主クラブ  
平和事務所

問合わせは  
トマ喰虫社へ